

「2色プリント」始めよう

2色で、もっと伝わる もっとコミュニケーション



ナビゲートブック

EASY
LOW COST
HIGH SPEED

紙もデータも2色でプリント

黒1色でプリントしている、いつものチラシ。

たとえば、いつもの黒にもう1色加えるだけで人目を惹きつける
訴求力の高いチラシに仕上がります。

本機を使えば、紙の原稿でも、パソコン内のフルカラーのデータでも、
かんたんに素早く2色プリントできます。

● + ● 多彩な原稿を「分版」して2色プリント。 原稿に適した分版方法を選べます。



原稿にさまざまな色が
使われていても…



目立たせたい色に応じた
分版方法を選んで
2色プリントできます



使うインクと同じ色で
原稿を作っておけば…

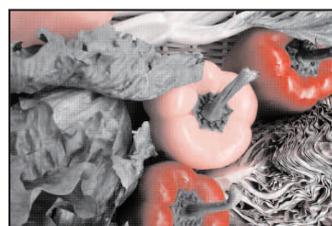


イメージどおりに
2色プリントできます

● + ● フルカラーのデータも、プリンタードライバーの設定で 2色プリントになります。



元の画像（フルカラー）



黒と赤による擬似カラー
(☞ P. 22)

CONTENTS

紙原稿からの2色プリント～分版～	P.3
カラー原稿を使う【色分版】	P.4
原稿に直接、囲みを書き入れる【エリア指定分版】	P.5
直に書き込めないときは【トレース分版】	P.5
タッチパネルでも囲んで色分けできます【デジタイザ分版】	P.6
「分版」のしくみと原稿作りのコツ	P.7
原稿の色で分版する場合	P.7
エリア指定で分版する場合	P.10
分版と筆記具の関係	P.11
分版 操作のながれ	P.12
【分版】と【ドリル印刷】を組み合わせる	P.15
パソコンからの2色プリント	P.17
プリンタードライバーの設定	P.18
原稿作りのポイント(2色プリント)	P.19
「マニュアル分版」の上手な使いかた	P.21
分版条件の設定	P.21
パラメーター選びのポイント	P.23
その他の分版	P.24
分版ページ合成	P.24
ドリル印刷分版	P.24
予備知識／付録	P.25
本機は、「孔版」印刷機です。	P.25
色を変えるときは、ドラムを換える	P.25
原稿を作るときは、印刷用紙よりも少し小さめに	P.26
付録「マニュアル分版」のパラメーターリスト	P.27

 **注意** 「安全上の注意」は印刷機本体の取扱説明書に記載してあります。ご使用前に必ずお読みください。

紙原稿からの2色プリント～分版～

分版とは

本機は、異なる色のドラムを2本使って、2色プリントをしています。

2本のドラムで2色プリントをするには、印刷する部分を色ごとに分けて、それぞれのドラムに製版する必要があります。そのためには通常、ドラム①用の原稿とドラム②用の原稿を別々に用意しなければなりません。

本機は、わざわざ別々に原稿を作らなくても、1枚の原稿から2本のドラムに、原稿を分けて製版できる「分版」機能を搭載しています。

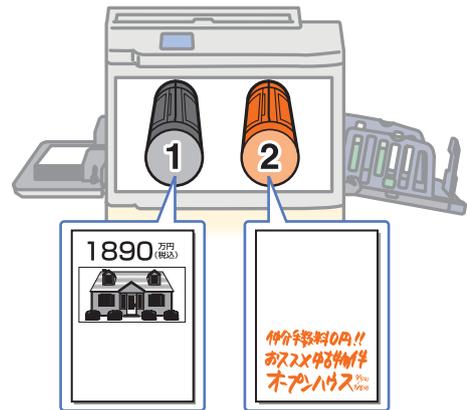
「分版」には、あらかじめ原稿を2色で作ったり、色分けしたい部分を囲んだりするなど、いくつかの色分け指示のしかたがあります。

次ページより、各分版で準備する原稿について紹介していますので、お手持ちの原稿が使える分版方法を見つけてください。

一枚の原稿から



スキャナーが読み取って自動的にドラム①と②に分けて製版



2色プリントのできあがり！

カラー原稿を使う【色分版】

色付けされた原稿の色を読み取って、2色プリントします。

本機にセットされたインクと同じ色で原稿を作れば、イメージどおりに2色プリントできます。

3色以上の原稿



原稿にさまざまな色が使われていても...

プリント結果



目立たせたい色に応じた分版方法を選んで2色プリントできます

2色原稿



使うインクと同じ色で原稿を作っておけば...

プリント結果



イメージどおりに2色プリントできます

[色分版]では、原稿の配色に応じて分版方法を選べます。

([赤色分版] [青色分版] [緑色分版] [寒色暖色分版] [有彩無彩分版])

詳しくは、P.7をご覧ください。

仕上がリイメージを見て分版方法を選べます [おすすめプレビュー]

[おすすめプレビュー]機能を使うと、実際の原稿の分版イメージが、本機にセットされたインク色で3種類表示されます。

どのような仕上がりになるかを製版前に見比べて、好みの分版方法を選ぶことができます。

[おすすめプレビュー]では、[色分版]の[赤色分版] [有彩無彩分版] [寒色暖色分版]と同じ分版処理が実行されます。



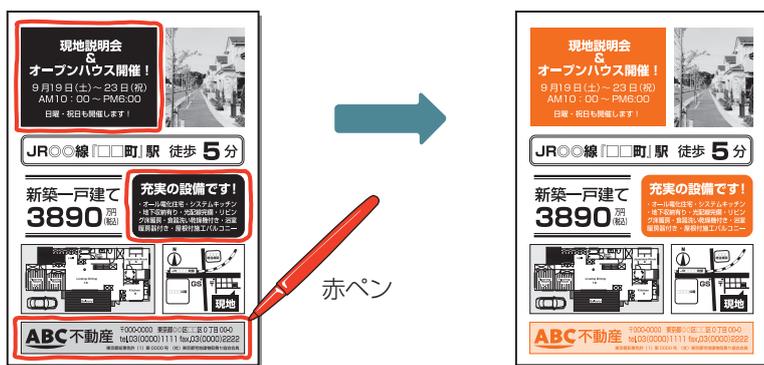
原稿



[色分版]と[おすすめプレビュー]では、原稿モードが自動的に[文字]になり、原稿全体が「文字」として画像処理されるので、写真の階調がつぶれてしまうことがあります。写真の階調を表現する方法については、P.13のコラムをご覧ください。

原稿に直接、囲みを書き入れる【エリア指定分版】

1色で作られた原稿の色分けしたい部分を、赤ペンを使って囲みます。
[エリア指定分版]は、囲み(エリア)の外側と内側とが色分けされるように原稿を作ります。



囲った内側の部分が、ドラム②でプリントされます。

色分けしたい部分を
赤ペンで囲む

参考 直に原稿へ書き込みができない場合は、[トレース分版]をお使いください。

直に書き込めないときは【トレース分版】

[書き込み分版]で色分けしたいのだけど、この原稿は大切だから書き込めない…。
そんなときは原稿の上に1枚紙を重ね、色分けしたい部分を赤ペンで囲みます。
[トレース分版]は、重ねた紙面上の、囲みの外側と内側とが色分けされるように原稿(2枚)を作ります。



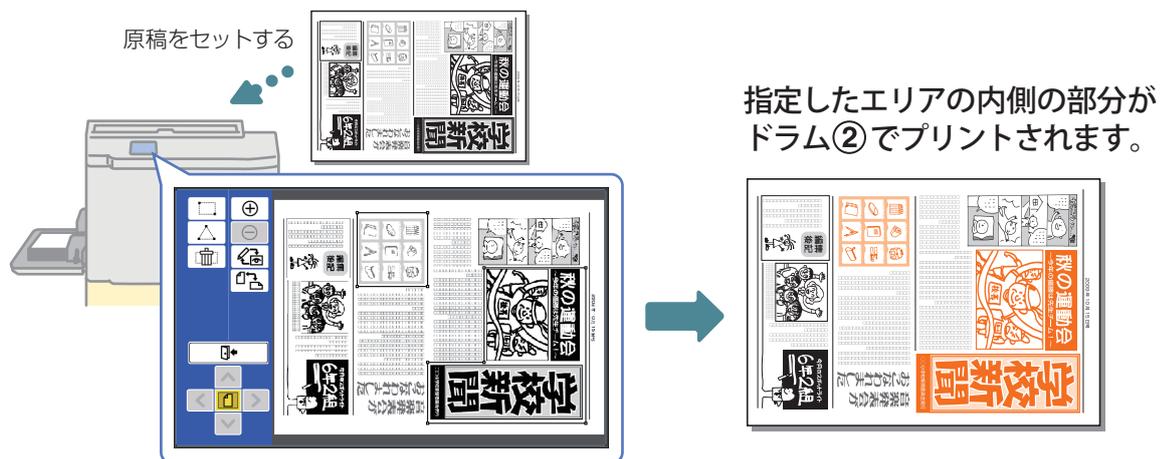
原稿にトレース用紙を重ね、赤ペンで
色分けしたい部分を囲む

トレース用紙に書いた囲みの内側の部分が、
ドラム②でプリントされます。

参考 ライトテーブルや窓ガラスを活用しましょう！
トレース分版をする際、原稿に紙(トレース用紙)を重ねて囲みを書くときは、ライトテーブルや窓ガラスを活用することで、原稿の内容が透けて見やすくなります。

タッチパネルでも囲んで色分けできます【デジタイザ分版】

本機のスキャナーで読み取った原稿や、ホールドされているデータを読み出し、タッチパネルで色分けしたい部分を指定します。



参考 [デジタイザ分版]では、分版以外の編集はできません。

「分版」のしくみと原稿作りのコツ

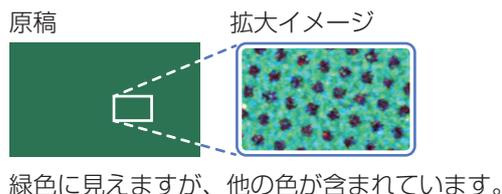
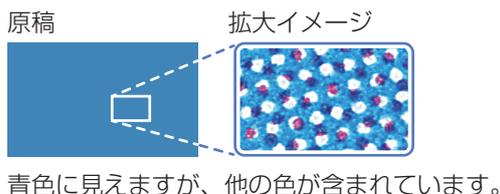
ここでは、「分版」によって、原稿がどのような基準で2つのドラムにそれぞれ振り分けられているのかを解説しています。「分版」のしくみを理解することは2色プリントを行うための原稿作りに役立ちます。

分版には、「色で分けるタイプ」と「エリア指定で分けるタイプ」の2タイプがあります。

原稿の色で分版する場合

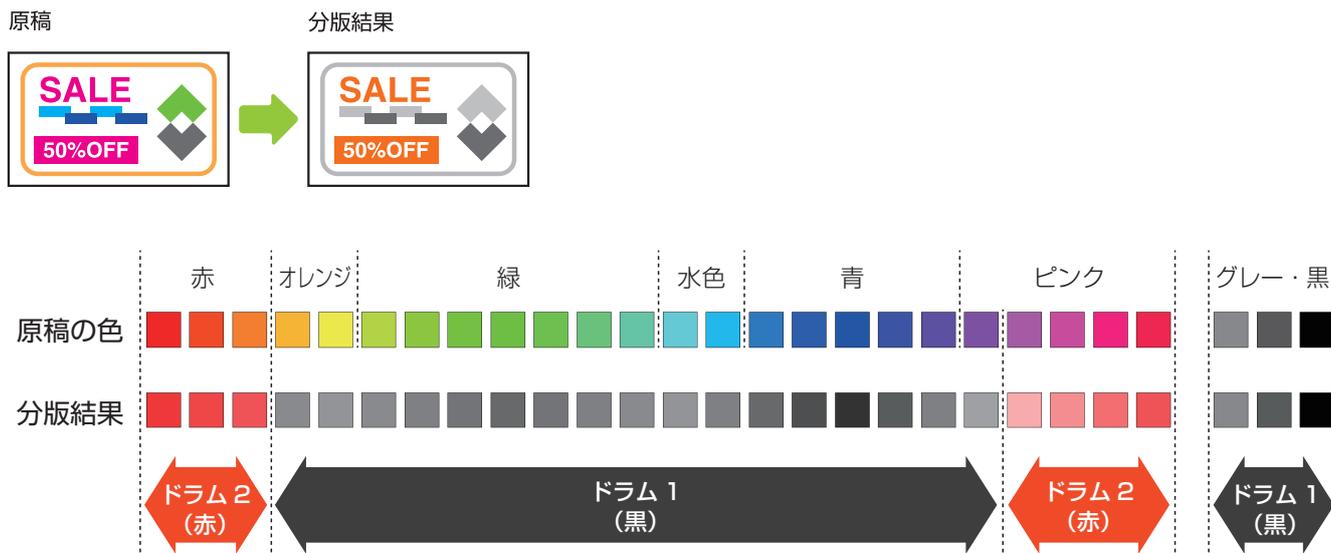
[色分版]は、画像(スキャンした原稿)の色によって2つのドラムに版を振り分けています。原稿に使用されている色の特徴(色相、彩度)を基準にした、5つの分版方法([赤色分版]など)から選択することができます。

参考 カラープリンター等でプリントした原稿は、1色に見えても他の色が含まれている場合があります。2色の掛け合わせとして分版されることがあります。その場合は[おすすめプレビュー]で分版結果をご確認のうえ、適切な分版方法を選んでください。



[赤色分版]

原稿の赤やピンクの部分と、その他の部分に分版されます。

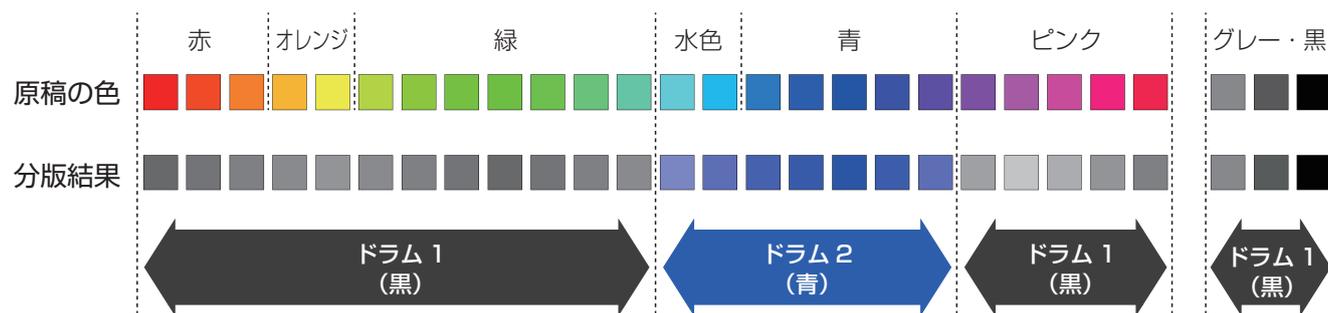
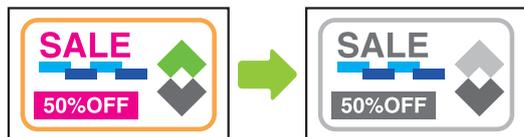


[青色分版]

原稿の青や水色の部分と、その他の部分に分版されます。

原稿

分版結果

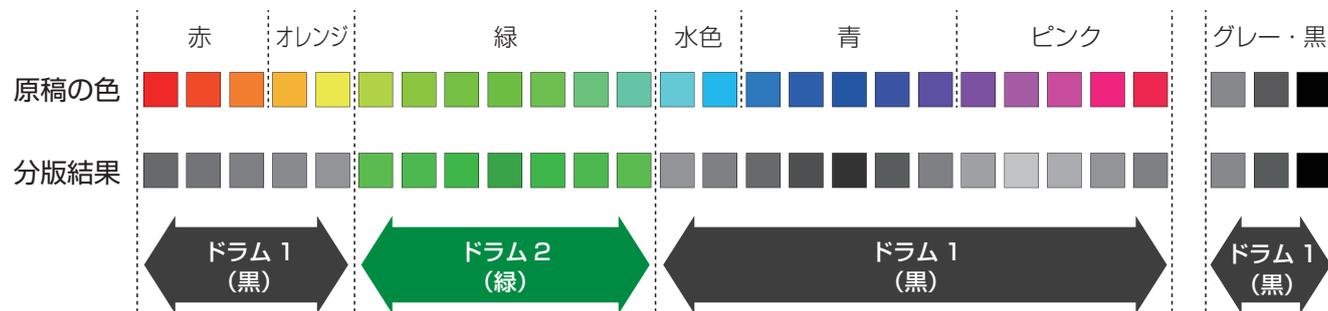
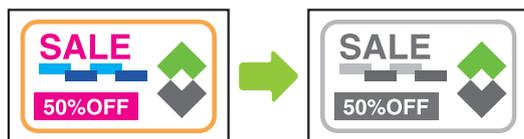


[緑色分版]

原稿の緑や黄緑の部分と、その他の部分に分版されます。

原稿

分版結果

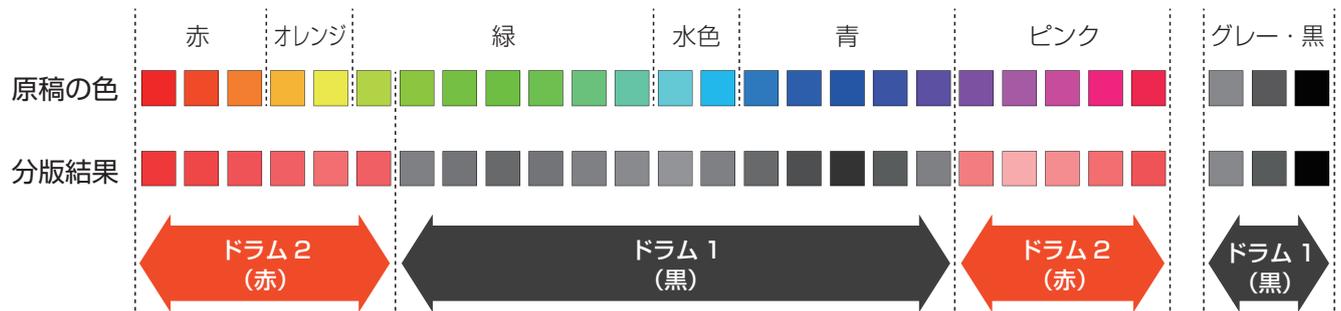
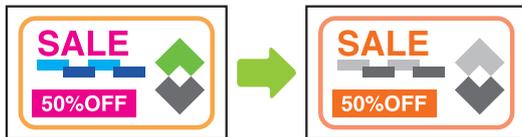


[寒色暖色分版]

原稿の赤やオレンジの部分（暖色）と、その他の部分（寒色）に分版されます。

原稿

分版結果

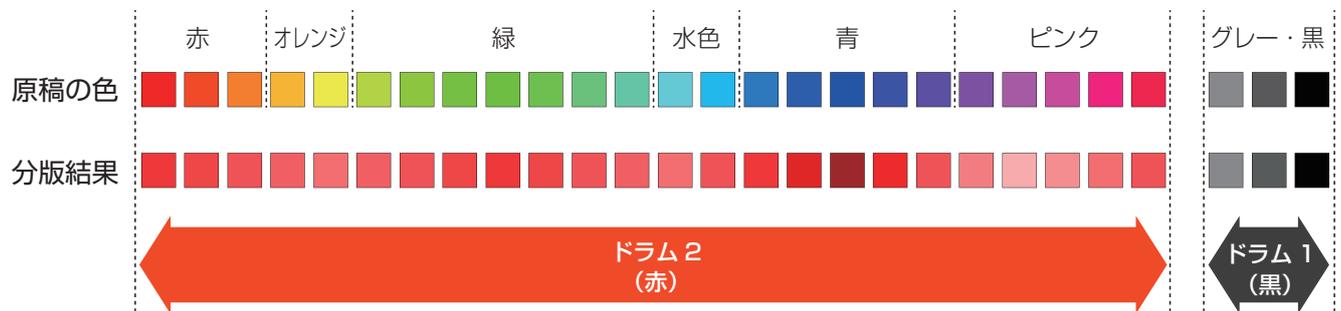
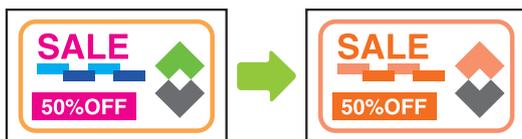


[有彩無彩分版]

原稿の黒やグレーの部分（無彩色）と、その他の部分に分版されます。

原稿

分版結果



エリア指定で分版する場合

[エリア指定分版]、[トレース分版]、[デジタイザ分版]は、色分けしたい部分を囲むことで、囲みの外側と内側を2つのドラムに振り分けています。

正しく分版するためのポイント

思い通りに分版するには、赤ペンを使ってキチンと囲むことが大切です。次のポイントを覚えて、上手に囲んでください。

赤ペン

濃い部分は作らない

×

線の太さは1~3mm

— 1 mm (2.25pt)

— 3 mm (4.5pt)

囲み線が1mmよりも細いと、囲みとして認識されません。また、3mmよりも太いと画像として製版・印刷されてしまいます。

文字やイラスト、画像から3mm以上囲みを離す

囲みと囲みの間は3mm以上あける

3mm以上

囲み線はつなぐ

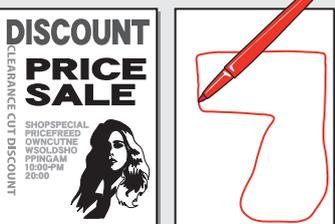
○ ×

囲み枠は10mm以上

10mm以上

分版と筆記具の関係

原稿の作りかたと利用できる分版の種類、筆記具の関係は、次のようになります。

原稿の作りかた	プリント結果	分版の種類	指示に使う筆記具 ／赤の筆記具	製版・印刷の条件
2色以上のカラーで原稿を作成 		色分版 おすすめプレビュー	手書きまたは パソコンで作成	原稿モード：[文字]のみ 不可 ・読取濃度選択 ・ブックモード ・連写 ・変倍
赤ペンを使って囲む 		エリア指定分版	ペン幅 1～3 mmの 赤ペン 不可 ・蛍光ペン ・赤ボールペン 薄い色のペンでは、 エリアが適切に識別 されないことがあります。	原稿モード：制限なし 読取濃度：マニュアル 不可 ・ブックモード ・連写 ・変倍 ・AF(自動原稿送り装置)
同じサイズの紙にエリアを書き 込んで、トレース用紙を作る 		トレース分版	ペン幅 1～3 mmの 赤ペン 不可 ・蛍光ペン ・赤ボールペン 薄い色のペンでは、 エリアが適切に識別 されないことがあります。	原稿モード：制限なし 読取濃度：マニュアル 不可 ・ブックモード ・連写 ・変倍
スキャナーで読み取った原稿や本機 のホールドデータを呼び出して、エリア 指定する 		デジタイザ分版	ポイントペン	原稿モード：[文字]のみ 不可 ・ブックモード ・連写

分版 操作のながれ

原稿作成から、印刷までの操作の流れを紹介します。詳しくは「取扱説明書」をご覧ください。



白黒でできた原稿の場合

- ▶ 操作パネルの画面で色分けを指示する場合は「デジタイザ分版の場合」へ
- ▶ 手書きで色分けを指示する場合は下記手順1へ

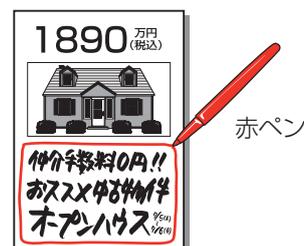


あらかじめ色付けされている原稿の場合

- ▶ 下記手順2へ

1 白黒原稿に色分けの指示をする

赤ペンを使って、色分けしたい部分を囲ったり、書き込んだりして、分版用の原稿を用意します。

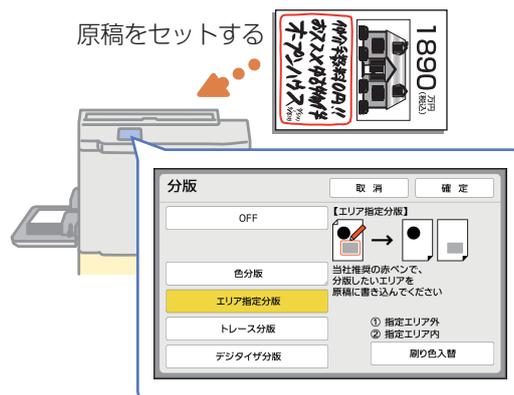


2 原稿をセットして、[分版]を設定する

原稿に応じて、分版の種類を選びます。

[おすすめプレビュー] を使う場合は、[機能一覧] 画面で [分版] の代わりに [おすすめプレビュー] を選びます。

原稿をセットする



3 プレビューで確認する

[スタート] キーを押します。

原稿の読み取りが始まり、操作パネルにプレビュー画面が表示されます。

上部のタブ①②にタッチすると、それぞれのドラムでプリントされる画像を確認できます。



参考 [デジタイザ] にタッチすると、分版の範囲を調整したり、部分的に写真処理を指定したりできます。

☞ P.13「写真として処理する領域を指定できます」

4 プリントする

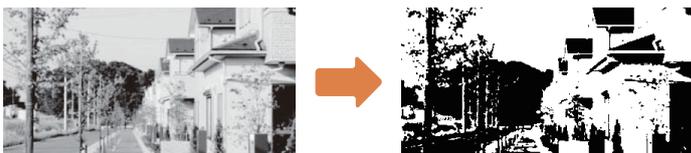
画面の [続行] にタッチすると製版が始まります。

試し刷りが出てきたら、印刷枚数を入力して [スタート] キーを押してください。



写真として処理する領域を指定できます

[色分版]と[おすすめプレビュー]では、原稿全体が「文字」として画像処理されるので、写真の階調がつぶれてしまうことがあります。



しかし、以下の手順で[デジタイザ]を使用すると、写真として階調表現される領域を指定できます。

[色分版]の場合

- 1 [分版]の[色分版]を設定して[スタート]キーを押します。
- 2 原稿が読み取られた後、[プレビュー表示]画面が表示されます。
- 3 [デジタイザ]にタッチすると、編集画面が表示されます。
- 4 [□] (二点入力)または[△] (多点入力)ツールで、写真として処理したい領域を囲みます。
- 5 [🖨️] (画像処理 / 枠線 / 網掛け)にタッチします。
- 6 [画像処理]にタッチします。
- 7 [写真]にタッチします。
- 8 [実行]にタッチします。
- 9 [🏠] (編集終了)にタッチします。
- 10 [プリント]にタッチします。
- 11 [スタート]キーを押すと、製版されます。



編集画面



[おすすめプレビュー]の場合

- 1 [おすすめプレビュー]を設定して[スタート]キーを押します。
- 2 原稿が読み取られた後、[おすすめプレビュー]画面が表示されます。
- 3 [次へ]にタッチします。
- 4 [デジタイザ]にタッチします。
- 5 [実行]にタッチすると、編集画面が表示されます。
上記「[色分版]の場合」の手順4に進んでください。



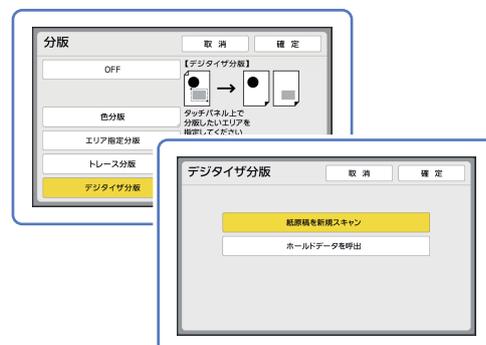
[デジタイザ分版]の場合

1 [分版]で[デジタイザ分版]を選ぶ

[紙原稿をスキャン]*にタッチします。

[スタート]キーを押すと原稿の読み取りを開始し、編集画面が表示されます。

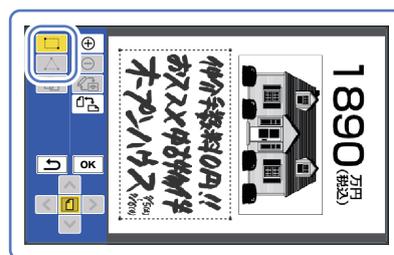
※ ホールドデータを使用する場合は、[ホールドデータを呼出]にタッチします。



2 色分けするエリアを指定する

ポイントペンで □ または △ にタッチして、色分けしたいエリアを指定します。

エリア内がドラム ② でプリントされます。

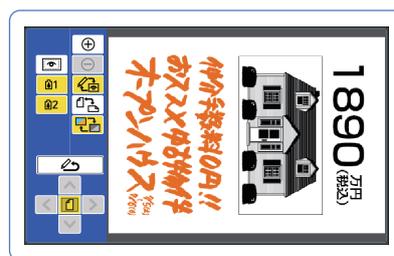


3 プレビューで確認する

🔍 にタッチすると、プレビュー画面に切り替わります。編集ツールの ① と ② でそれぞれの版の画像が確認できます。

どちらか一方にタッチすると画面が切り替わります。

確認後、再度 🔍 にタッチして編集画面に戻ってください。



4 プリントする

編集画面で、🔍 にタッチすると、編集終了画面が表示されます。

[プリント]を選択し、[スタート]キーを押してください。

製版が開始されます。

試し刷りが出てきたら、印刷枚数を入力して[スタート]キーを押してください。



プリント結果

【分版】と【ドリル印刷】を組み合わせる

たとえば学校でテストを実施するときに、生徒用のテスト問題と先生用の回答の入ったテスト問題を、一度の操作で各組(グループ)用の枚数に分けてプリントすることができます。

同様な例では、役所での各種申請用紙と記入例などにも活用できます。

原稿は、1色でプリントされたテスト問題に、赤ペンで回答を書き込んだものや、あらかじめ2色で作ったものを使用します。

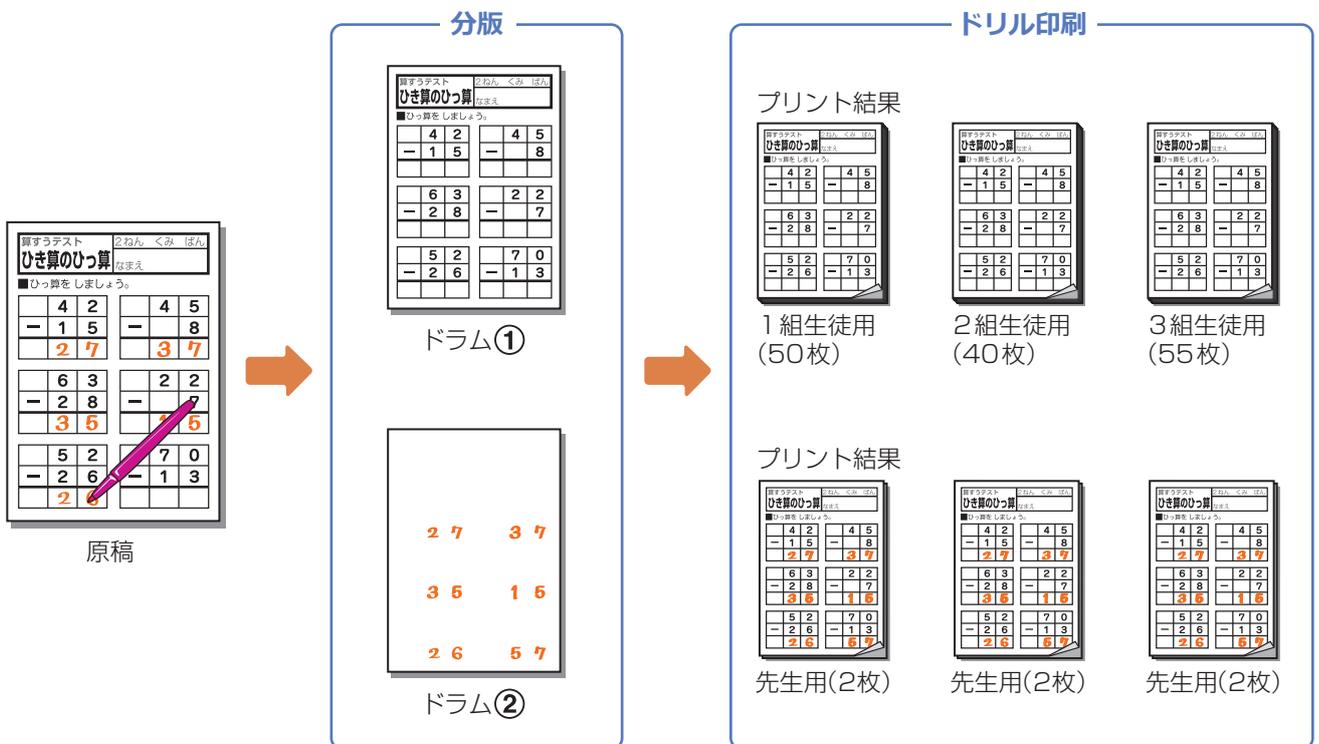


1 テスト問題に赤ペンで答えを書き込む

2 【分版】を使って製版する

3 【ドリル印刷】で印刷する

1組分の印刷が終わったら、先生用の回答入りテスト問題を印刷。引き続き、2組目の印刷を行う。



参考 【ドリル印刷】はプログラム印刷のひとつです。各組の生徒数と回答入りのテスト問題の必要枚数を登録しておく、次回からは登録したプログラムを呼び出すだけでドリル印刷ができます。

[刷り色入替] でカラー反転

たとえば、原稿の黒い部分と赤い部分とを入れ替えてプリントしたいときなど、原稿作りまでさかのぼらなくても [刷り色入替] にタッチするだけで、原稿とは逆の配色でプリント(製版)できます。



パソコンからの2色プリント

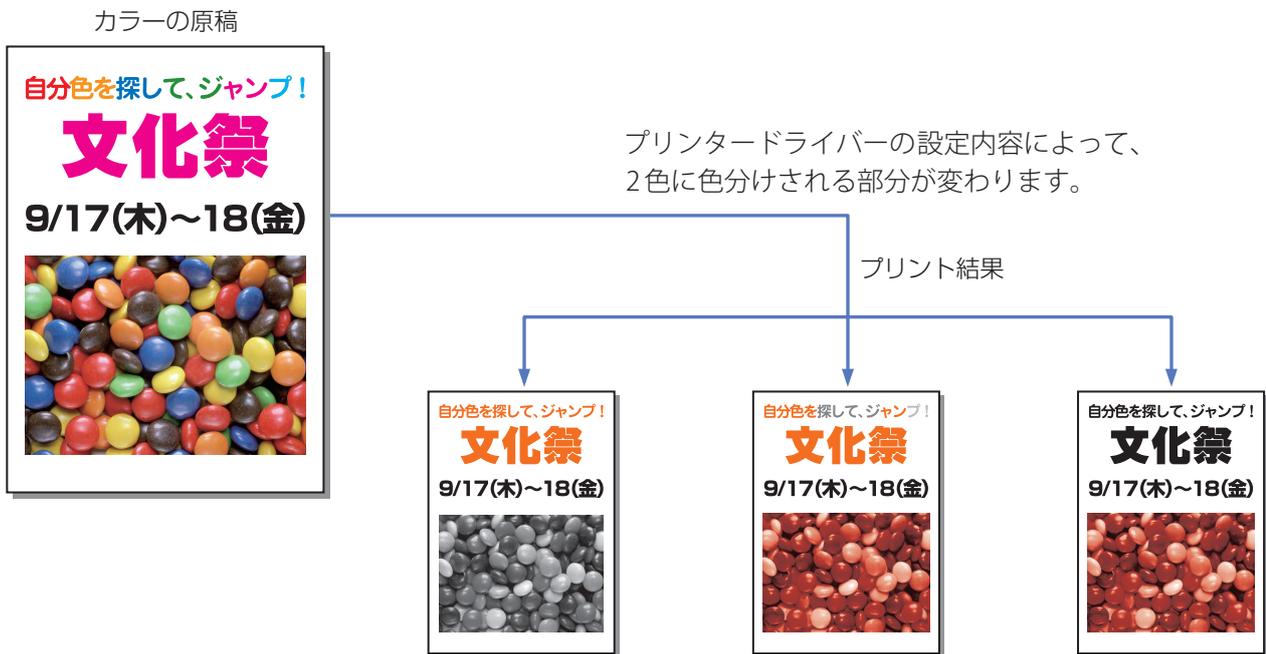
ここでは、プリンタードライバーでの「分版」について説明しています。

本機での2色プリントにパソコンを利用することで、2色プリントの表現がさらに広がります。

説明にあたり、本機のドラム①には黒、ドラム②には赤のインクが装備されていることを前提とします。

プリンタードライバーによる「2色プリント」とは

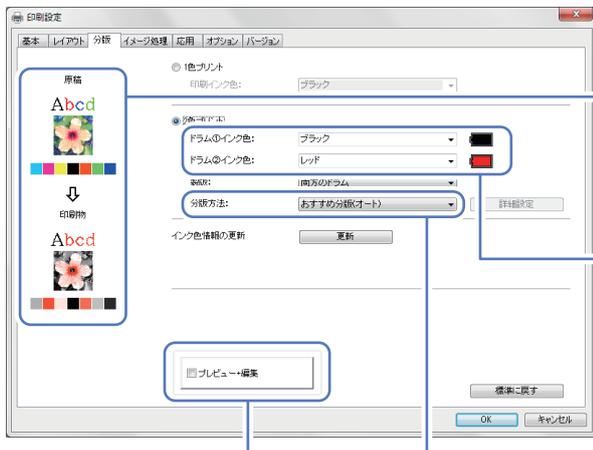
紙原稿を使った「分版」では、色とエリア指定といった2種類の色分け方法で2色プリントしていますが、プリンタードライバーを使うことで、かんたんに分版基準が切り替えられ、様々な色分けの2色プリントができます。



2色プリント用の原稿は、使用するインクと同色の2色で作ることをお勧めしますが、3色以上の色が使われていたり、カラー画像や写真などを含む場合は、使用するドラムの色と分版条件の組み合わせによってプリント結果は様々です。本機のプリンタードライバーは、あらかじめ多くの分版条件を選択肢として持っています。それぞれの分版条件がどのようにプリント結果へ作用するのかを理解することが、思い通りに2色プリントするためのポイントとなります。

プリンタードライバーの設定

[分版] タブにある [2色プリント] で設定します。



• 分版イメージ

[2色プリント] の設定条件に応じて、[印刷物] 画像が変化し、印刷イメージを確認できます。

• ドラムとインク色

ドラム①、②の色が表示されています。[更新] ボタンをクリックすると、セットされているインクの色が表示されます。

• 分版方法

原稿を2色に分版するときの方法と条件を設定します。

• [プレビュー+編集]

チェックを入れると、印刷実行時に [プレビュー+編集] ツールが起動します。[プレビュー+編集] ツールでは、分版結果のプレビューを確認して、分版の範囲を任意に変更できます。

「分版」の方法

ここでは、「おすすめ分版(オート)」と「マニュアル分版」について説明します。

おすすめ分版 (オート) : 原稿データの色と、本機にセットしている2本のドラム色の組み合わせから、最適と思われる条件をプリンタードライバーが自動的に設定してプリントします。原稿にカラー写真がある場合は、擬似カラーでプリントします。

マニュアル分版 : 黒(ドラム①)で印刷する部分と、赤(ドラム②)で印刷する部分を、「文字・イラスト」と「写真」とで別々に設定できます。「おすすめ分版(オート)」では思うように色分けされないときに使ってください。「マニュアル分版」の設定ひとつで、同じ原稿でも異なった2色プリントになります。

☞ P. 21 「「マニュアル分版」の上手な使いかた」

参考 分版方法には、上記2種類の他に、「ドリル印刷分版」と「分版ページ合成」があります。

☞ P. 24 「その他の分版」

原稿作りのポイント(2色プリント)

2色プリント用の原稿を作る際に、次の3つのポイントを押さえることが、うまく2色プリントするためのコツになります。

Point 1 原稿は、実際にプリントする2色で作る

「おすすめ分版(オート)」は、セットされているインクの色を元に自動で分版するので、セットされたインクと同じ色で原稿を作れば、イメージどおりの2色プリントができます。



Point 2 「写真は1色でプリントしたい」そんなときは、原稿で1色にしておく

写真を2つのドラムのどちらか1色でプリントしたいときは、原稿を作る時点で、写真をプリントしたいどちらかの色に変換しておきます。



「マニュアル分版」を使えば、カラー写真のままでも、どちらか片方のドラムで1色プリントすることができます。



Point 3 文字やイラストと写真とは、分版するときの処理方法が異なることを考慮する

- ・「おすすめ分版(オート)」では、「文字・イラスト」はドラム①またはドラム②のいずれか1色でプリントされます。
(大きな文字や、加工した文字は、2色の重ね刷りになることがあります。)
- ・「写真」は、2色の刷り重ねによる疑似カラー(P.22)でプリントされます。
- ・「マニュアル分版」では、「文字・イラスト」と「写真」とで、別々に任意の分版条件を設定できます。

参考  「文字・イラスト」と「写真」の条件

文字 : テキスト情報を持ち、フォントの種類が変更できる状態のものを目指す

イラスト : CADやドローイングソフトで書かれたベクトル図形を目指す

写真 : jpeg/Tiff/Bmp/Pngなどの画像データを目指す

おすすめ分版(オート)の場合

	文字	イラスト	写真
原稿			
プリント結果	 <p>黒い部分はドラム① それ以外はドラム②</p>	 <p>黒い部分はドラム① それ以外はドラム②</p>	 <p>ドラム①(黒)と ドラム②(赤)で重ね刷り</p>

参考  薄い色の文字をはっきり印刷したいときは、[イメージ処理] タブにある [文字処理] で [強制ベタ] を選択してください。

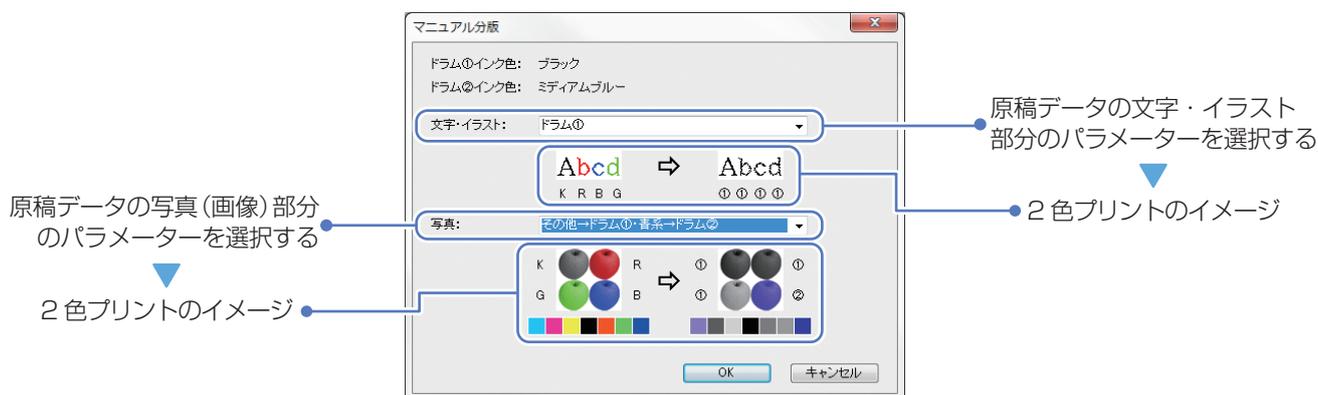
文字処理:

- 誤差拡散
- 網点処理
- 強制ベタ

「マニュアル分版」の上手な使いかた

分版条件の設定

「マニュアル分版」では、「文字・イラスト」部分と「写真」部分それぞれを、異なる条件で分版設定できます。
[分版]タブで「マニュアル分版」を選択し、[詳細設定]ボタンをクリックすると、分版するための条件が設定できます。
[文字・イラスト]、[写真]リストそれぞれに分版する際の条件が用意されており、その条件のひとつひとつをパラメーターといいます。
各リストボックスの下には、原稿と2色プリント後のイメージが表示されています。このイメージは、選んだパラメーターに応じて変化します。



上記のマニュアル分版画面の例では、次のようなプリント結果になります。

文字・イラスト：ドラム①

文字とイラストは、原稿の色に関係なくすべてドラム①でプリントされる

写真：その他→ドラム①・青系→ドラム②

写真(画像)の青系の色の部分だけがドラム②でプリントされ、その他の色の部分はドラム①でプリントされる



原稿データ

印刷結果は、本機にセットされているドラムの色によって異なります。

ドラム①：黒
ドラム②：青の場合



ドラム①：黒
ドラム②：赤の場合



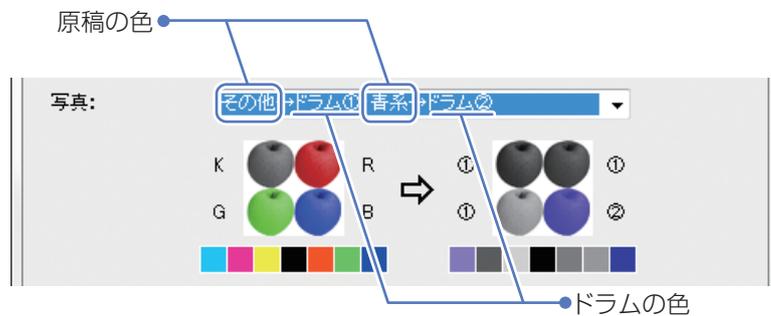
カラー写真の2色プリントは、写真で多く使われている色や素材と、パラメーターとの組み合わせによって仕上がりが変わります。カラーの原稿を2色で表現するには、多少の慣れや知識が必要です。

原稿の色味によって、各パラメーターがどのように作用するのかを理解することが、「マニュアル分版」を上手に使うためのポイントになります。

パラメーターと原稿の色、製版するドラムとの関係を、巻末にて一覧表にしてあります。

☞ P.27 「「マニュアル分版」のパラメーターリスト」

参考  パラメーターの“→”の左側は原稿の色で、右側は使うドラムの色を表しています。



擬似カラーとは

カラー写真(Jpeg/Tiff/Bmp/Pngなどの画像データ)部分を2色で再現しようとする方法です。

「おすすめ分版(オート)」では、セットされているドラム2色で最適と思われる分版をします。ただし、緑系が多い風景写真や赤系が多い果物の写真のように、写真の色味によっては、あえてプリンタードライバーにまかせず「マニュアル分版」を使い、お好みに調整することでキレイに見える場合があります。

元の画像(フルカラー)



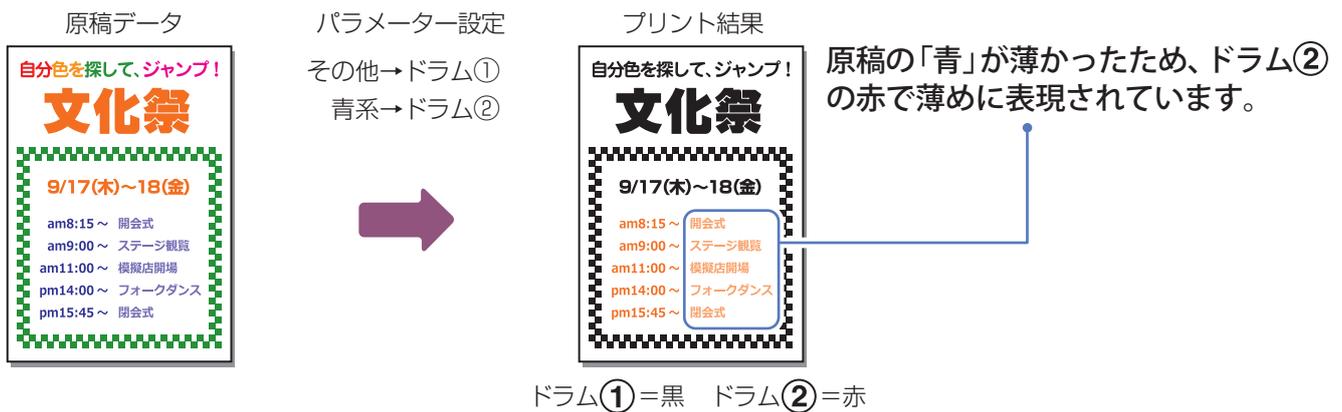
黒と赤による擬似カラー



パラメーター選びのポイント

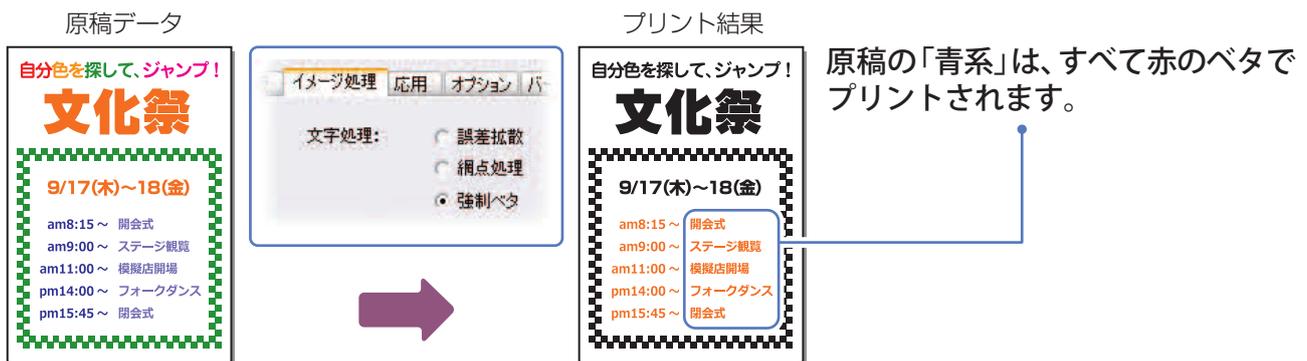
特定の1色だけをカラーでプリントしたいときは

複数の色が使われている原稿から、特定の1色だけをカラーでプリントしたいときは、「その他→ドラム①・青系→ドラム②」など、“その他”が使われているパラメーターを使います。特定の色をドラム②へ、特定の色以外のすべての色を“その他”としてドラム①に振り分けることで、目立たせたい色だけがカラーになる2色プリントができます。



薄い部分をベタにしたいときは

「文字・イラスト」として扱われるデータに限り、[イメージ処理]タブの[文字処理]で[強制ベタ]をチェックすることでベタにできます。



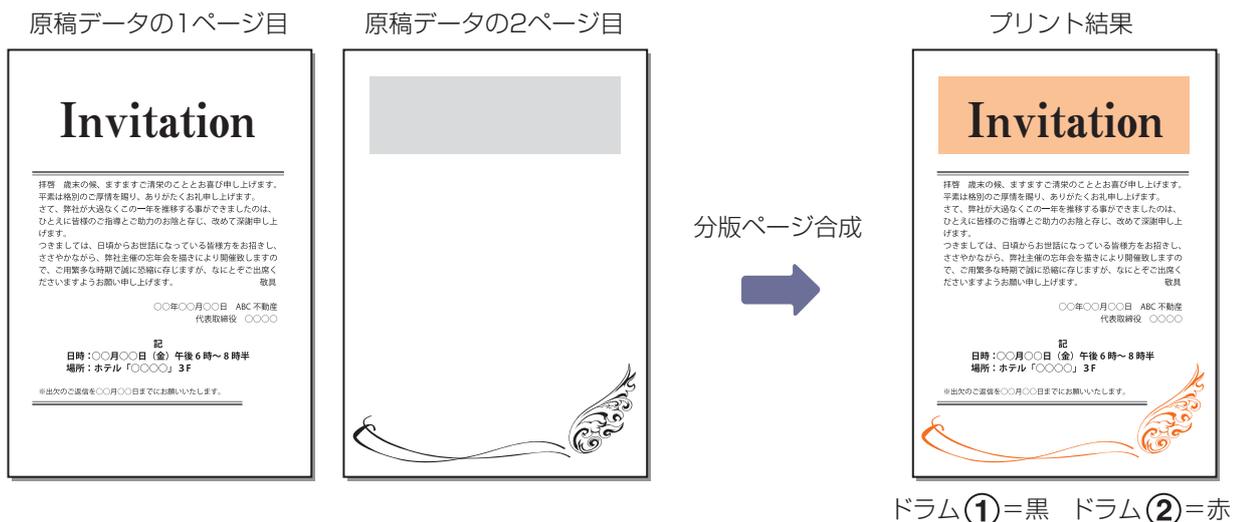
写真(画像)部分を擬似カラーにしたいときは

[写真]のパラメーターリストから「その他」が使われていないパラメーターを選んでください。

その他の分版

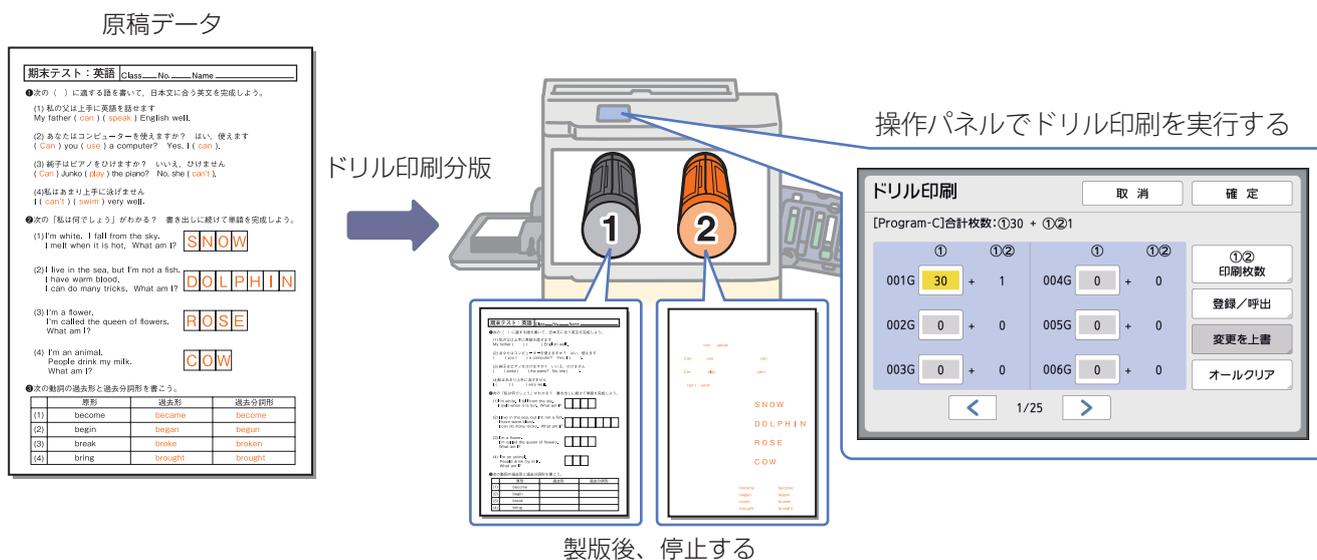
分版ページ合成

原稿の奇数ページをドラム①で、偶数ページをドラム②でそれぞれ製版する機能です。あらかじめ、2色の原稿データが各ページ2版に分けて作られているときにお使いください。「分版ページ合成」は、[分版]タブの[分版方法]から選んでください。



ドリル印刷分版

原稿データを自動的に2色に分版し、データを本機に送信し製版までを実行する機能です。本機は製版後停止しますので、印刷部数の指定・印刷などの操作は、本機の操作パネルのドリル印刷画面で行ってください。



本機は、「孔版」印刷機です。

「孔版」とは、孔(あな)の版という意味です。

印刷の元となる版(マスター)に孔(あな)を開けて、その孔からインクを押し出して印刷をしています。マスターに孔を開けて「版」を作ることを「製版」と呼びます。

版画で有名な浮世絵は、木版画です。

木を彫って作った「版」に絵の具を塗って、印刷をしています。

色の数だけ「版」が必要です。1枚の絵を印刷するために、色ごとに版を分けて作らなければなりません。

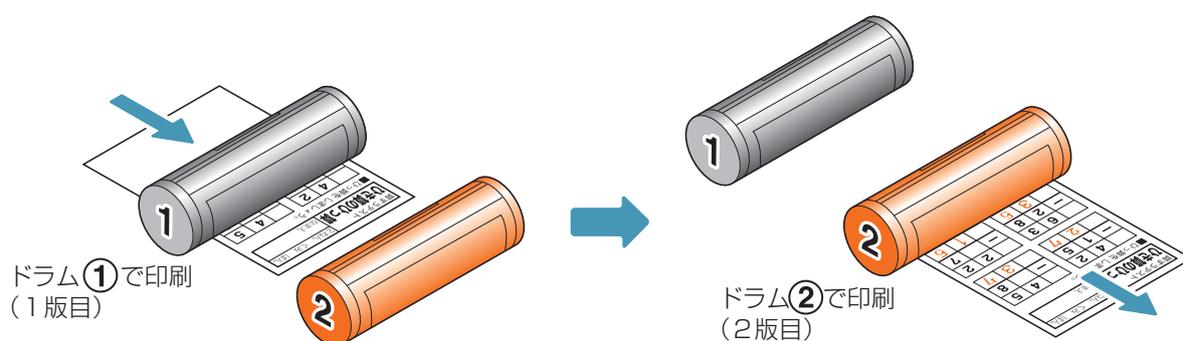
この「版を分ける」ことを「分版」と呼びます。

また刷り重ねた回数で、3版刷り、4版刷りと呼びます。

本機の「分版」は、この版を分ける作業をかんたんに行う機能です。

本機には2本のドラムがあります。

つまり版を2つに分けて、2版刷りをしていることとなります。



色を変えるときは、ドラムを換える

印刷の色は、1版1色です。「版」は「マスター」という薄いフィルムで、ドラムの外側に巻きつけられています。

インクはドラムの中に入っていて、マスターの表面から出るようにドラムの内側全体に塗られています。

インクの色を変えたいときには、ドラムごと交換してください。

インクボトルだけを交換して、印刷することはできません。

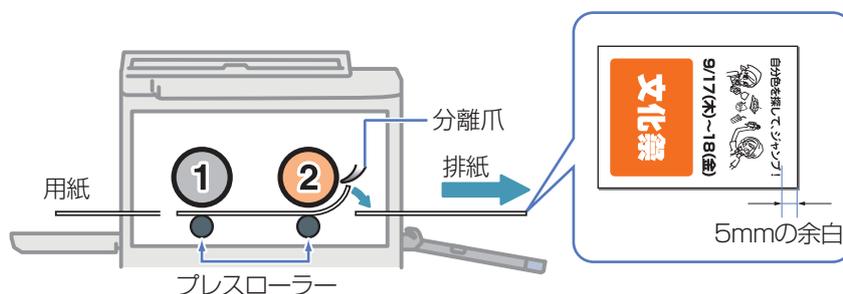
原稿を作るときは、印刷用紙よりも少し小さめに

5mm程度の余白が必要です

本機では、印刷用紙がドラムの下を通ることで印刷されます。

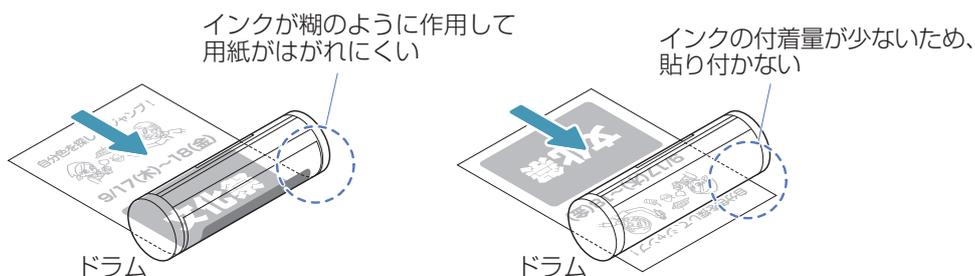
このとき、プレスローラーが印刷用紙をドラムに押し付けているため、用紙がドラムに貼り付いた状態になります。そこで、用紙とドラムとの間に分離爪を差し込み、ドラムから用紙を引き離しています。このような仕組みから、印刷用紙の先端がドラムに貼り付くことのないよう、原稿を作る際には5mm程度の余白を作る必要があります。

分離爪を差し込む隙間がないと、用紙がドラムに貼り付いたままになり、「紙詰まり」を引き起こしてしまいます。このトラブルは「舞い上がり」と呼びます。



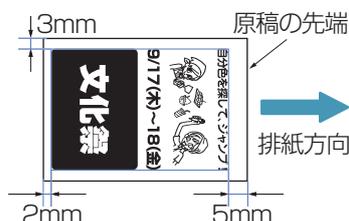
原稿の上部にベタ要素があるときは逆向きに

原稿の先端に十分な余白があっても、原稿の上部に大きなベタ（塗りつぶし部）があると、インクが糊のように作用してしまい、排紙しづらくなります。このような原稿は、逆向きに製版することで「舞い上がり」を防止することができます。



周囲の余白について

本機では原稿を読み取り後、印刷用紙を基準に天地左右それぞれ数ミリの余白ができるように製版しています。印刷用紙サイズいっぱい使って作られた原稿の場合は、その分カットされて製版されます。このような原稿のときは、製版する際に「周囲余白」を使用してください。「周囲余白」を使用することで95%に縮小して製版され、原稿がカットされることを防ぎます。



「マニュアル分版」のパラメーターリスト



ここでは、プリンタードライバーの「マニュアル分版」を使うときに選ぶパラメーターを、原稿で使われている色と、各パラメーターとの組み合わせによってどのように製版・印刷されるのかという視点でリストにまとめたものです。

「マニュアル分版」する際の、パラメーター選びの参考にしてください。

○：ベタ △：アミ ×：製版しない

パラメーター	原稿色	文字・イラスト		写真	
		製版・印刷状態		製版・印刷状態	
		ドラム①	ドラム②	ドラム①	ドラム②
ドラム①	黒	○	×	○	×
	赤	△	×	△	×
	青	△	×	△	×
	緑	△	×	△	×
ドラム②	黒	×	○	×	○
	赤	×	△	×	△
	青	×	△	×	△
	緑	×	△	×	△
有彩色→ドラム① 無彩色→ドラム②	黒	×	○		
	赤	○	×		
	青	○	×		
	緑	△	×		
赤→ドラム① 青黒→ドラム②	黒	×	○		
	赤	○	×		
	青	×	△		
	緑	×	△		
無彩色→ドラム① 有彩色→ドラム②	黒	○	×		
	赤	×	○		
	青	×	○		
	緑	×	△		
青黒→ドラム① 赤→ドラム②	黒	○	×		
	赤	×	○		
	青	△	×		
	緑	△	×		
赤系→ドラム① 黒→ドラム②	黒			×	○
	赤			○	×
	青			×	△
	緑			×	△
赤系→ドラム① 青系→ドラム②	黒			○	○
	赤			○	×
	青			×	○
	緑			△	△
赤系→ドラム① 緑系→ドラム②	黒			△	○
	赤			○	×
	青			△	△
	緑			×	○

原稿の黒い部分はドラム②で、赤・青・緑などの色部分はドラム①でプリントされます。ただし、緑はドラム①の色でアミ色表現されます。

○: ベタ △: アミ ×: 製版しない

パラメーター	原稿色	文字・イラスト		写真	
		製版・印刷状態		製版・印刷状態	
		ドラム①	ドラム②	ドラム①	ドラム②
黒→ドラム① 赤系→ドラム②	黒			○	×
	赤			×	○
	青			△	×
青系→ドラム① 赤系→ドラム②	黒			○	○
	赤			×	○
	青			○	×
緑系→ドラム① 赤系→ドラム②	黒			○	△
	赤			×	○
	青			△	△
赤系→ドラム① その他→ドラム②	黒	×	○	×	○
	赤	○	×	○	×
	青	×	△	×	△
青系→ドラム① その他→ドラム②	黒	×	○	×	○
	赤	×	△	×	△
	青	○	×	○	×
緑系→ドラム① その他→ドラム②	黒	×	○	×	○
	赤	×	△	×	△
	青	×	△	×	△
黒→ドラム① その他→ドラム②	黒	○	×	○	×
	赤	×	△	×	△
	青	×	△	×	△
グレースケール→ドラム① その他→ドラム②	黒			○	×
	赤			×	△
	青			×	△
その他→ドラム① 赤系→ドラム②	黒	○	×	○	×
	赤	×	○	×	○
	青	△	×	△	×
その他→ドラム① 青系→ドラム②	黒	○	×	○	×
	赤	△	×	△	×
	青	×	○	×	○
その他→ドラム① 緑系→ドラム②	黒	○	×	○	×
	赤	△	×	△	×
	青	△	×	△	×
その他→ドラム① 黒→ドラム②	黒	×	○	×	○
	赤	△	×	△	×
	青	△	×	△	×
その他→ドラム① グレースケール→ドラム②	黒			×	○
	赤			△	×
	青			△	×



お問い合わせ先

本体・オプション製品に関しては

お客様相談室 ☎0120-534-881

受付時間(月～金 10:00～12:00,13:00～17:00 土・日・祝日・当社休業日を除く)

当社製プリンタドライバ/ソフトウェアの操作に関しては

サポートセンター ☎0120-229-330

受付時間(月～金 9:00～17:30 土・日・祝日・当社休業日を除く)

理想科学工業株式会社

〒108-8385 東京都港区芝5-34-7田町センタービル 電話(03)5441-6666

ホームページ <http://www.riso.co.jp/>